

8-4-10 河川計画専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

専門委員会を計9回(4月～12月)開催し、河川講習会、河川見学会等の企画・運営について審議した。委員会は対面とWebを併用した。

(2) 河川講習会の開催

第32回河川講習会をWeb形式で開催した。今年度は総視聴回数1,059回、同時視聴者数686名と多くの方に参加いただいた。テーマは、令和3年11月に改正された「流域治水関連法」を踏まえ、「流域治水～地域連携に向けた取組事例と課題～」として3名の講師にご講演いただいた。

a) 開催日時

令和5年11月2日(木) 13:00～16:30

b) 講演テーマと講演者

①「“みず”から守る、吉田川流域治水～流域治水の本格的実践～」国土交通省 水管理・国土保全局 治水課 事業管理室 企画専門官 石田 和也

②「令和4年8月豪雨を踏まえた流域治水の取組について」新潟県 土木部 河川管理課 課長 補佐 南波 宏明

③「農林水産省における「田んぼダム」の取組について」農林水産省 農村振興局 整備部 農地資源課 経営体育成基盤整備推進室 課長補佐 石森 健市

c) 参加者：タイムリーな講演内容であり、最新の取組事例が紹介されることから、河川だけでなく都市計画の技術者の参加も見られた。

d) 講演概要：石田企画専門官からは、東北地方で初めて特定都市河川に指定された吉田川の事例を題材に、現場の河川事務所が地元や自治体に行った働きかけ等についてご説明いただいた。南波課長補佐には、甚大な被害が発生した一級河川春木山大沢川における輪中堤(二線堤)の整備、村上市の流域治水関連法を活用した流域治水型災害復旧の概要等についてご説

明いただいた。石森課長補佐からは、農林水産省における「田んぼダム」の取組事例や効果、農地整備事業や多面的機能支払交付金の活用方法等についてご説明いただいた。

(3) 河川見学会の開催

第16回河川見学会を開催した。新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度から開催が見送られてきたが、令和5年5月に5類感染症に変更されたことから、若手技術者等を対象とした見学会を再開した。参加者は35名であった。

a) 開催日時

令和5年11月17日(金) 12:00～17:00

b) 目的と開催場所

- ・目的：ダム再生による整備、流域治水への取り組みについて学ぶことを目的とした。
- ・開催場所：天ヶ瀬ダム(ダム再開発後)

c) 見学内容

天ヶ瀬ダム下流の宇治川河道、天ヶ瀬ダム管理支所、ダム本体、流入部、ゲート室、放流口を見学した。天ヶ瀬ダム管理支所では管理所職員による事業概要説明や意見交換を行うとともに、ダムコン、ダム本体及び再開発設備の各施設の見学により、ダム再開発事業の概要を理解した。

(4) 研修会への講師の派遣

全国建設研修センターより要請を受け、2テーマの自治体職員向け研修会へ講師派遣を行った。

(5) 国土交通省との意見交換について

「河川計画業務の品質」「洪水予測業務の民間開放について」等の意見交換会を開催した。

(6) RCCM 自主教材の改訂

RCCM 自主教材の改訂の必要性について確認を行い、修正作業を実施した。

2. 次年度の活動について

会員からの開催要望が多い河川講習会、河川見学会及び対外的活動(講師派遣、意見交換会等)等を継続して実施する。

(河川計画専門委員会委員長 中村 謙一)